

外からではわからないパティオがある
ヨーロッパのプチホテルのよう

船場ビルディング



外からは想像できない内部が楽しい。住居を併設した鉄筋コンクリート造のビルとして、1925年の完成時には周囲の木造家屋の中にそびえていた。外から見ると比較的シンプルなデザインだが、中央の入り口をくぐれば、明るい中庭が目にとまる。入り口から続く幅広い通路や、床に敷き詰められた木製ブロックは、中庭まで荷馬車を引き込むための工夫。問屋街として発展した船場の土地柄が反映されている。中庭を取り囲んだ開放的なつくりは、今では他にあまり例が無い。空間の魅力が個性的なオフィスやショップを数多く集めているのだろう。一つ一つのドアの向こうでは、今日も想像できないクリエイションが行われている。小さな街のような中庭だ。

(倉方俊輔)

所在地：大阪市中央区淡路町 2-5-8
建設年：1925年
構造・規模：RC造4階、地下1階
設計：村上徹一